

選手直前インタビュー 俺の出番だ!!



高木 隆弘

(神奈川/64期)

地元(の記念)を走れるっていうことで、何かのキッカケになってくれればと思ってる。気合も入るし、そこがうまくかみ合って、ここからエンジンをかけたいね。それに若い子たちが活躍できる場をつくってあげられるようにっていう思いもある。

川崎 健次

(神奈川/88期)

地元記念は毎年出させてもらってるけど、もうあと何回も出られないだろうから、1回、1回にかける思いは年々強くなってます。6月四日市の落車はあったけど、徐々に良くなってきてるし大丈夫。あとは本番までにどれだけ上げられるかですね。



野口 裕史(千葉/111期)

レースの組み立ては粗削りだが、重戦車を彷彿させるパワー先行は迫力満点。まだ優勝経験はないものの、今年はG3開催に3回出場して2回決勝に乗っている。地元南関勢のけん引役として期待は大きい。



PICK UP RACER



瀬戸 栄作(長崎/109期)

今年からS級初挑戦。落車負傷のため3月玉野記念からスタートとなったが、一次予選で鮮やかなまくりを決めて2着といきなり好走。その後は散発的ながら決勝に乗っていて、スピードは一級品だ。



木村 幸希(広島/109期)

今期は待望のS級に初昇格。前期のA級戦は成績にバラツキが目立っていたが、S級の水が合っているのか、4場所続けて初日予選で確定板入り。8月川崎G3の一予は3着もまくり上げたスピードは素晴らしかった。

S級ブロックセブン

8/27(最終日) 6R

ブロックセブンとは

「推理しやすい、わかりやすい、的中しやすい」をコンセプトにした、競輪独特の「地区」の色合いをより濃く打ち出したS級7車立ての新たな単発レース。

今回の出場メンバーでは断トツの競走得点を持つ地元の小原太樹が中心だ。小原は高松宮記念杯を⑤③②③着。初のG1優等で表彰台に乗る大活躍だった。その後はF1戦出場が続いているが、直近の8月岐阜の準決は中団奪取からまくって快勝と引き続き動きはいい。積極果敢な金子哲大の番手を主張か、自分でやっても勝てる。市橋司優人に筒井敦史が続く西勢が怖い。市橋は、8月小倉の準決で小森貴と小松崎大の先行争いを単騎で豪快にまくって2着。金子が近況一息なだけに、市橋の一口气攻撃が決まって筒井の抜け出しは十分だろう。7月立川の最終日は4番手から直線一気と筒井は差し脚健在。目標不在の愛敬博之の動向にも注意。

地元小原太樹が決める



小原 太樹